



第48号  
平成23年8月  
発行 NPO法人小野川と佐原の町並み保存会  
お問い合わせ 佐原町並み交流館  
電話 0478(52)1000

# 佐原の復興をめざして

## 第一回「まちづくり塾」の開講

香取市は、さる三月十一日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けた。近年、観光客の減少が懸念されてはきたが、その幅はさらに増大した。今こそ、私たちは新しい町づくりを目指して研鑽を深めなければならないと考える。そこで、「まちづくり塾」を二ヶ月に一度開催することとした。

まず、中島宏典さん(京都市景観・まちづくりセンター在職)を招き六月三日(金)佐原町並み交流館において、第一回目を開催した。

### 八女福島市の場合

福岡県の南、提灯や茶で知られる人口七万余の城下町。二〇〇二年に伝建地区に選定された。

保存の取り組みは、八つの町内会々長を中心に「委員会」を組織し、それを外部組織が支える。また、市の事務局の強力な支えが強み。

### 第七期定期総会

#### 東日本大震災の直後に



挨拶する高橋賢一理事長

五月二三日(月)午後五時より、NPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」の第七期定期総会が佐原町並み交流館で開催され、高橋賢一理事長は挨拶冒頭、故田中良一さん(東洋軒)の「のれん会」班長としての功績を讃え哀悼の意を表した。(挨拶の概要) 昨年度の計画は、順調に消化してきたが、この度の災害で佐原は大変なことになった。被災された方々にお見舞いを申し上げ

るとともに、助け合って佐原の復興を成し遂げていきたい。市民だけでなく、全国の佐原を愛する方々から多大なご支援をいただいたし、市内に設置した支援金箱にも多額の寄付を入れていただいた。今年度は、各界の識者から話を聞く「町づくり塾」を開きたい。第二回は、フードアトリエの土地真弘さんを招く予定だ。また、佐原が復興する様子を映像に残したいと思う。



講演する中島宏典氏

不動産の所有者は高齢者が多いので、不動産を紹介・斡旋する「管理委託方式」を採用する。「保存機構」が寄付などの支援をうけて、修復の費用の一部を補助し、家賃から回収する仕組みをとる。

不動産の斡旋・取引は、グレーゾーンでやる、全てに市の行政が支援してくれる。「保存機構」が積極的に関わる。手続は、信頼ある業者が

ボランティアとしてやってくれる。建物は複数の所有者の場合が多く、ノータッチの場合があり、こんな時こそ、行政の協力は力強い。

### 長浜市の場合

曳山祭を残すために町並み保存が必要というのが前提の町。琵琶湖の畔十二万人の黒壁の町。

観光客は、黒壁の蔵、長屋で買物をして帰るし、経営者や社員は郊外から通勤するので、町の中心に人が住まないドーナツ現象で、人間関係が薄い。

そこで、高齢化の進んだ中心市街地に人を住まわせる取り組みをはじめた。住むことが条件になれば、無責任なことはいできないわけである。

### 京都市の場合

私たちの団体へのこれまでの相談件数七百件ほどの内、百件ほどを修復した。町屋は四万八千軒、半数は改修が必要で、また年間一千軒が壊されている。観光の生命線である町並みの魅力が消えてしまうので、啓発の取り組みが大変。今年中には建築の基本法が京都市から出る予定なので、佐原にも紹介したい。

海外の支援を受けて町屋を再生するプロジェクトが進み、ニューヨークのファンドから二五万\$の資金支援をうけた。海外では日本文化に対する関心と注目度が高まっている。いま、大資本や市内の企業が町屋の存在価値を認識して、支援を始めている。私たちはそれで公的支援のない一億円余の基金を作った。

### 二十二年度の歩み

- 各月第一日 曜日骨董市(八坂神社)
- 各月一回 町並み案内班会議
- 四月 七日 班長会議
- 五月十四日 散策しながら地元を楽しむ会①前半、①後半同十九日、七月二日、八月十八日、九月十五日、十一月十七日、一月十九日、二月十六日
- 十七日 忠敬墓前祭 観福寺
- 十九日 第六期・総会
- 二十二日 小野川清掃
- 六月 九日 理事会
- 二十八日 中心市街地活性化診断助言事業、香取市観光のヒアリング
- 七月 五日 伊能忠敬関係資料国宝指定のポスター垂幕手配
- 十六日 十八日 夏の祇園祭
- 八月 九日 二十周年記念誌編集委員会
- 十四日 盆フェスタ
- 九月 二日 小野川清掃・全体会
- 十日 地域再生大賞ヒアリング
- 十八日 全国町並みプレゼミ盛岡
- 二十九日 千葉国体・皇室お迎え
- 十月二三日 関東ブロックゼミ(桐生市)
- 十一月二十一日 建物公開
- 十二月八日 理事会
- 十七日 忠敬祭実行委員会
- 一月 四日 骨董市(第六十回) 来場者八万人記念品贈呈式(八坂神社)
- 二月 一日 全体会(桶松)
- 二五日 地域再生大賞授賞式
- 三月十四日 香取市重伝建・景観形成地区の被災調査協力
- 二七日 理事会
- 二九日 千葉県指定有形文化財を守る会・発足



# 座談会

7月28日(木)

## 東日本大震災を経験して 佐原の復興をめざして、 新たな決意

東日本大震災にみまわれた佐原の状況をどのようにとらえたらよいか、また佐原の町並み復興の展望について、NPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」の前理事長・加瀬順一郎、現理事長・高橋賢一、副理事長・吉田昌司、佐原町並み交流館長・小林和男の四氏に座談会形式でご意見をうかがった。(場所は交流館、司会・新井)

### 佐原に震度5強の揺れ

加瀬・「家が揺れた瞬間飛び出して、隣の駐車場から、我が家の屋根瓦が土煙を上げて滝の様に落下するのを見たし、小野川の護岸が崩れるのを見ました。土煙で周りが一瞬暗くなり、地獄絵でした」

吉田・「買ったばかりのテレビを支えるのが精一杯。早く外へ出るようにと叫ぶ家内の声は耳に入らなかった。経験したことのない揺れでしたので、これからどんな被害が広がっていくかが心配でした」



加瀬・「ここに至って結果論をいくら言ってもしかたない。古い瓦がすべて落ちてしまつて困つたと文化庁の人に嘆いたら、いや、日本の建物は倒壊から自らを守るために、先に瓦を落すんだよと言われました。随分と勉強になりました。長生きしていい良かった」

吉田・「お客様にもその話をします。」

皆さんが感心して聞いています。これが日本の文化だと思ふ」

小林・「業務で小野川の下流域、利根川の水門近くの家を訪問してました。液状化で家が傾いた時、三菱館が崩壊したのではと思ひました。すぐに車に乗りましたが、道が凸凹で走れない。車を乗り棄て忠敬橋近くまで来た時、茶色のレンガの建物がしつかり立っているのを見て我に返りました。ようやく香取街道沿いの惨状が目に入りました。人災がなかったことにほつとしました」

高橋・「幼稚園にいましたので、始末を終えてから香取街道に出て惨状を見ました。これで町並みが大丈夫なのかなというのが最初の気持ちでした。香取街道に土煙が舞う光景は想像していませんでした」

加瀬・「平成八年から修復を始め、土蔵も三年間かけて昨年十一月にやつと完成した。これで俺も先祖にでかい顔ができるよ、職人たちと乾杯をした矢先ですからね。二十年近くの努力が三分で消え

てしまいました」

吉田・「何はともあれ、人的被害がなかったのが幸いでした」

### 震災の被害の影響は

小林・「観光客は一気に減少しました。沢山あった予約のロケは全てキャンセルされました。修復が待たれます」

加瀬・「観光客は九〇％は減少しました。お客さんたちが被害にあった建物をしきりに撮影するのを見るといやな感じがしましたが、すぐその後、また修復された佐原の姿を見に来ますよ、という言葉を聞いてかえって励まされました」



高橋・「千葉県指定の建造物を除けば、本体が倒壊とか傾いてしまつたというのではない。ただ千葉県指定の建物と土蔵の被害がひどいが、これも

ある程度お金をかければ修復できます。修復が三年〜五年ほど遅れたと考えるといいのではないかと

町づくりも、数年時計が逆戻りした。あまり悲観する話ではない。千葉県指定の建物はきちんとした位置づけがあるので残せると思う。あとは土蔵です。

土蔵は修理の例がなく、修復の歴史・基準もない。この震災で多くの土蔵が損傷していますから、東北から土蔵がなくなってしまうとまで言われています」

吉田・「修理中のシート上に元の姿の写真を掲げていただくと、歴史的建物の理解の助けになります。観光客の激減には失望していません。お客さんは、こんな時期に観光にやってくるのすまないとおっしゃいますが、今だからこそ来ていただきたい。佐原の歴史の宝物の真の姿を知る絶好の機会です。歴史的建造物だからこそこうなつたのですと説明してあげられる。佐原が関東で最初に重伝建地区に指定された意味がそこにあります」



吉田・「修理中のシート上に元の姿の写真を掲げていただくと、歴史的建物の理解の助けになります。観光客の激減には失望していません。お客さんは、こんな時期に観光にやってくるのすまないとおっしゃいますが、今だからこそ来ていただきたい。佐原の歴史の宝物の真の姿を知る絶好の機会です。歴史的建造物だからこそこうなつたのですと説明してあげられる。佐原が関東で最初に重伝建地区に指定された意味がそこにあります」

### 佐原の復興に向けて

加瀬・「保存と町づくりを並行して進めていくのは難しい。まず、歴史的建造物保存、町並み保存一筋でいけば、自然と町づくりは出ていく。町づくりを主眼にすると、ビジネスが優先されて、カラフルな町になってしまう。佐原には、江戸から昭和初期までの歴史的に

ある程度お金をかければ修復できます。修復が三年〜五年ほど遅れたと考えるといいのではないかと



香取街道沿い・伝建地区の惨状



崩れた小野川護岸(忠敬橋付近)



液状化で砂が噴出した小野川(初めは川一面を覆っていた)







町並みを歩いて

重伝建地区の隠れた魅力を発掘

(その七)

莊嚴寺の十一面観音像と

大仏師・今井左近

諏訪山にある諏訪山・莊嚴寺の開基は天正年間、寛永十八年以降諏訪神社の別当寺。本尊不動尊。元は市の中心、現在レストラン「東洋軒」の辺にあり、昭和二十七年に現在地へ。



今井左近の登場

ので、檀家たちが莊嚴寺再建にと浄財を集め、隣に菅谷寺の御堂を建立。明治十八年十一月八日、「うつし」の不動尊像(頭部)を、菅谷寺住職の経応和尚が葛籠に入れて背負い、利根川を下って佐原へとやって来た。

網吉の寄進により、香取神宮本殿と別当寺の本尊の改修が行われた。仕事は十一月に終了。善慶たちは江戸へ帰ったが、左近だけは佐原に残ったが、理由は子孫の方もわからない。「京仏師」といへば京都の出。莊嚴寺の住職様の調査で、元禄二年発行の「京羽二重(はぶたえ)」とい

う人名帳に「東洞院五条上ルに住す大仏師左近入道法橋運恵(うんけい)」の記載が発見された。大仏師左近の足跡は、江戸・神田へと東上し、香取神宮の仏像修理に佐原へ。日光輪王寺にある「如意輪観音坐像(元禄二年)」、正徳年間(一七一〜一七一五)の莊嚴寺の本尊不動尊像の修理と弘法大師像も左近の作である。京仏師佐近と鎌倉仏師佐近の接点?

収蔵庫にある巨大な十一面観音像(高さ三・二五米)は、藤原時代後期春日の仏師の作。香取神宮別当寺金剛宝寺の本尊で、明治初期の廃仏棄釈で野晒しになったのを、北横宿の菓子舗・大和屋佐藤庸介さんらが莊嚴寺のご本尊にと貰い受けた。莊嚴寺も廃寺の危機にあったが、新潟県新発田の菅谷寺の僧が出開帳に来て火渡りの行を行ない賑わった

散策しながら地元を楽しむ会

昨年五月より開始し、三月十六日で八講座を終了する寸前、東関東大震災があつて、終了式は四月二十七日に延期された。

当初、申込み者は十八名だったが次第に参加者が増えて二五名になった。インターネットで知ったという銚子、船橋、東京からの熱心な参加者もいる。

町並みをたどり、本宿から新宿の

商家について学び、伊能忠敬記念館、山車会館、法界寺、諏訪神社、莊嚴寺、観福寺、伊能忠敬旧宅、最後に香取神宮で一年目を終了し、その後昼食会をもち親睦を深めた。二年目には新たに二一名が集まり浄国寺、佐原の喜三郎と興味溢れる講座が続いている。さらに、ガイド研修小旅行も計画中である。



浄国寺の山門前にて学習

町並み案内(その九) 案内を続けて、歴史が好きになった

町並み案内班・太田定雄さん

十年ほど前、「三菱館で観光案内をする人を募集しているから」との誘いがあり、観光客に道を教える仕事だということで気軽に参加しました。

初めは、お客さんにお茶を出したりおしゃべりをしてきましたが、やがて吉田さんから資料をいただくようになり、それを読むのが楽しくなりました。

佐原生まれですが、知らないことが沢山あつて驚くと共に、段々と歴史が好きになりました。元々、人前で話すのは不得意でした。人前に立つと頭が真っ白になってしまいます。



震災後の小野川辺を案内する太田さん

でも、徐々に少しずつ案内が出来るようになりました。なるべく、年号など、寛政とか、文政、天保ではお客さまにはぴんと

通じません。一年間続きました。講師の吉田昌司さんのご指導には本当に感謝しています。町並みガイドに参加してくれる人が増えると思います。

編集後記・平成二十三年三月十一日(金)午後二時四六分宮城県沖マグニチュード9.0の地震が発生し、佐原も震度5強で揺れ、小野川の一部の川床は道路の高さにまで盛り上がり、貴重な建物が傷つき、屋根瓦が落ちましたが、いま、国・県・市、また全国からの力強い励ましを受けて、着々と修復が始まっています。心機一転し、今号より版の大きさをA3二頁からA4四頁に変えました。ご意見をください。(新井)